

南条殿御返事

建治二年三月十八日 五五歳

芋^芋頭^頭・河^河のり・又^又わさび^{わさび}一々人々の御志承り候ひぬ。鳥^鳥のかいこ^{かいこ}をやしなひ、牛の子を牛のねぶるが如し。

夫^夫衣^衣は身^身をつ^つみ、食^食は命^命をつ^つぐ。されば法華經^{法華經}を山中^{山中}にして読み^{読み}まいらせ候人を、ねんごろ^{ねんごろ}にやしなはせ給ふは、釈迦^{釈迦}仏^仏をやしなひまいらせ、法華經^{法華經}の命^命をつ^つぐに^にあらずや。妙^妙莊^莊嚴^嚴王^王は三聖^{三聖}を山中^{山中}にやしなひて沙羅樹^{沙羅樹}王^王仏^仏となり、檀王^{檀王}は阿私^{阿私}仙人^{仙人}を供養^{供養}して釈迦^{釈迦}仏^仏とならせ給ふ。されば必ずよみか^{よみか}ゝねども、よみか^{よみか}く人を供養^{供養}すれば、仏^仏になる事疑^疑ひなかりけり。經^經に云^云はく「是^是の人^人仏道^{仏道}に於^於て決^決定^定して疑^疑ひ有^有ること無^無けん」と。南無妙法蓮華經^{南無妙法蓮華經}、南無妙法蓮華經^{南無妙法蓮華經}。

建治二年三月十八日

日 蓮 花 押

謹上 南条殿御返事

橘三郎殿・太郎大夫殿、一紙^{一紙}に云云、恐れ入り候。返^返す返^返すははき殿^殿読み聞^聞かせまいらせ給へ。